

はしがき

グローバル会計学会会長 菊谷 正人

コロナ禍のために第3回・第4回研究大会がオンラインで開催されていたが、第5回研究大会は東洋大学白山キャンパス（準備委員長：鳥飼裕一教授）で令和4年10月22日（土）・23日（日）の2日間にわたり、3年振りに対面で開催することができた。

10月22日には、学会賞審査委員会と理事会がその重要性を鑑み対面・オンラインのハイブリッド形式で開かれ、諸般の事情により学会賞審査委員・理事の藤井秀樹教授と吉見宏教授はオンラインで参加された。理事会終了後には、希望者に限り、大学近くの寿司割烹店で懇親会を久しぶりに催し、旧交を温めた。

10月23日の研究報告大会では、8号館7階125記念ホールにおいて比較会計制度論、国際税務会計、実証会計と多岐にわたる研究テーマが発表されている。報告者による35分の発表後、15分と限られた時間であったが、参加者から建設的な質問があり、活発な質疑応答が交わされた。

前号でも述べたように、本学会の基本目的は、グローバル化を指向する「国際会計」の質を高めるために、国際財務会計・国際企業報告、国際管理会計、国際税務会計、国際会計監査などを広く包含する「国際会計研究」にとって重要な課題を包括的・多面的・学際的な側面から総合的に探究することである。第5回研究大会においても、多様な研究テーマを深耕し、濃密な討論が展開された。

残念ながら、コロナ禍が終息していないために、会員全体での意見交換会・懇談会を催すことはできなかったが、第6回研究大会が開催される大阪商業大学では、細心の注意を払いながら開催し、学問的意見交換と懇親を図りたいものである。

なお、査読付き論文を公刊するに当たっては査読者がボランティアで査読報告書を作成して頂いていたが、査読作業の努力に報いるために謝金を支払うことが決議された。複数の匿名レフリーによって厳格に査読された『グローバル会計研究』は、国際会計の理論研究・実証研究において、より高い品質の学術誌になると思われる。